

《株式会社エフエム東京 第413回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 26 年 11 月 11 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外6名 社内 0 名)

◇出席委員(5名)

横 森 美 奈 子 委員長	香 山 リ カ 委員
内 館 牧 子 委員	秋 元 康 委員
西 田 善 太 委員	

◇欠席委員(1名)

渡 辺 貞 夫 委員

◇社側出席者(9名)

富木田 代表取締役会長  
千 代 代表取締役社長  
唐 島 専務取締役  
石 井 常務取締役  
山 科 常勤監査役  
村 上 執行役員 編成制作局長  
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー  
宮 野 編成制作局 編成制作部長  
平 岡 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(2名)

平 常務取締役  
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 24 分)

『SCHOOL OF LOCK! Saturday 長渕 LOCKS!』  
2014 年 10 月 25 日(土) 22:00~22:30 放送

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■第10回 日本放送文化大賞 ラジオ部門 TOKYO FM が準グランプリを受賞

11月5日に行われた「第10回日本放送文化大賞」(一般社団法人 日本民間放送連盟)の贈賞式において、ラジオ部門で TOKYO FM が企画制作した『TOKYO FM 特別番組 これからを見つめて～LOVE&HOPE 3年目の春だより～』(2014年3月11日 13:00～15:45 放送)が準グランプリを受賞いたしました。

この番組は、今年6月に発表された「第51回ギャラクシー賞」(放送批評懇談会)のラジオ部門で「大賞」受賞に続き、二つの権威ある賞で高く評価される結果となりました。

なお、日本放送文化大賞のグランプリ(中国放送)、準グランプリ受賞番組については、多くの方々に聴取していただくために、表彰から3ヵ月以内に全国放送される予定です。(ラジオ AM 受賞番組は AM 局のみ、FM 受賞番組は FM 局のみ)

<日本放送文化大賞・審査講評より>

3年間継続してきたリアリティが存分に伝わる。登場する人たちが身近に感じられるのは、被災者に静かに寄り添ってきた制作者とリスナーの距離感そのものだと感じた。

ラジオが個と個を繋ぐメディアであることを認識させる。

選曲も素晴らしく、音楽の力、声の力を十分に生かした力作。

今後もぜひ継続してほしい。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○審査員として参加したが、今回の選考は波乱万丈だった。個性的な作品が多かったため、審査員の票が割れ、2回投票をし直したほどだった。中国放送の作品は、広島のお好み焼きと原爆、そして現代の問題を結びつけた点でユニークだったので支持されたと思うが、非常に接戦だった。

○これは応募制なのか？

■各局1作品のみのエントリー制。各年度1作品しか出せない分、各局エントリーする作品を厳選している。

**議題2: 番組試聴 (約24分)**

**【 番組名 】**

『SCHOOL OF LOCK! Saturday 長渕 LOCKS! 』

出演:長渕剛、とーやま校長

**【放送日時】** 2014年10月25日(土) 22:00~22:30放送

**【番組概要】**

10月より、平日夜10時より放送している「SCHOOL OF LOCK!」の土曜日版、「SCHOOL OF LOCK! Saturday」をスタートいたしました。この時間帯はパーソナリティにアーティスト長渕剛を迎え、とーやま校長と共に「長渕 LOCKS! 」として放送しています。長渕氏は4年前に同番組に生でゲスト出演し、全国のティーンリスナーに人生、勇気、悩み、夢を熱く語りました。さらに出演後、番組とリスナー宛に直筆で7枚に渡る手紙を届けてくれました。時を経て、当時の記憶が強く心に残っていた長渕氏は「SCHOOL OF LOCK! 」へのレギュラー出演を強く希望、この10月より「炎の生活指導」の先生として、10代リスナーと再び真正面から向き合っています。

また、長渕氏は来年8月に富士山麓ふもとつばら(静岡県富士宮市)で10万人を集めオールナイトライブ開催を予定しています。番組ではコンセプト上、これを「富士合宿」と位置づけ、このオールナイトライブに番組リスナーを連れて行くことも計画しています。

本日までご試聴いただくのは、10月25日(土)に放送した回です。この回では、今年、親友を白血病で亡くした福岡県の16歳のラジオネーム 紗(すず)のメールを受けて、長渕剛がそのリスナーと直接電話で会話し、メッセージを送りました。

**【委員の意見および社側説明】**

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○30年ほど前から長渕さん本人と仕事をしているので、彼の人柄を知っている者として、良い番組だと思った。彼の熱さや語り掛けなど非常にラジオ向きだが、TFM としての向き合い方がもったいないと思った。若者たちが聴いてどう思うかを一番知りたところだが、来年の富士に向けての宣伝番組に見える。

せっかく長渕剛というラジオ向きのパーソナリティを迎えたのなら、この暴れ者で面倒くさい男に手綱をつけて、あのしゃべりにTOKYO FMが惚れたんだ、という感じでガチで純粹にやってほしい。

リスナーの電話にも表れていたが、彼の良いところは不器用なところだ。「ラジオは

遠回り」だと思っているが、彼は電話したリスナーに不器用にいくつもの言葉を重ねて一生懸命励まそうとしていた。長渕剛を今キャスティングしたのはすごく良い。SCHOOL OF LOCK!らしいし、娘どころか孫ほど歳の違うリスナーと向き合おうとする、一皮むけた彼のうるささ、とーやま校長とのコンビネーションも良く、番組としてはとても良いのだが、来年に向けてのキャンペーンかなというのは、リスナーはすぐに察知する。

SCHOOL OF LOCK! らしいお茶目な演出をそこまでする必要もないように思えた。土曜日だけは違う、という感じでもっと長渕氏を前面に出し、ディープにやってはどうか。

○長渕さんは、年齢、男女、職業問わず人気のアーティストの一人だと思うが、以前テレビで長渕さんが自衛隊員を励まし、強面の隊員たちが号泣している場面を見て驚いたことがある。熱さ、一生懸命さに対して思いがあるんだなと思い、番組自体は面白かった。

面識がないので、彼に対する勝手な印象として、かなり面倒くさい横暴なところのある男という印象を持っていたのだが、こんなに一生懸命にありっただけの言葉を使ってリスナーに対して真面目に答えているんだなということに非常に驚いた。恐らく紗ちゃんにもリスナーにも伝わり、彼の言葉によって紗ちゃん以外の10代も号泣しているんじゃないかという気がした。

それと、もう一つ驚いたのは、紗ちゃんの悩みがすごく根源的であることだ。自分にはもっと若い子を甘く見ていたところがあったので、かなり驚いた。10代たちの本来的な姿をすくいあげて、かつ長渕さんが励ますというのは、とてもよい土曜日の放送になるだろう。逆に突き放し方もご本人が持っているなら、そういう部分も自然に出ると良い。

○ラジオっぽくて良いと思う。意外と高校生ぐらいはこういうクサさも好きなのではないかと思う。要は説教なのだが、あまり予定調和に聴こえなかったし、何を言い出すんだという怖さもラジオっぽかったし、その匂いを吹き飛ばす勢いが最初からすごくスタッフも楽しんで作っている様子が伝わってきた。

SCHOOL OF LOCK! の蓄積は、どこまで恥ずかしくできるかというスタッフの勘所だと思う。そこに長渕さんのトーン&マナーが重なった。さすがに一緒にいたいと思わせる何かがある。それが良く出ていた。これがきっかけで10万人ライブに高校生が一部でも参加するなら、マーケティングとしても良いと思う。ラジオはコンテンツよりトーン&マナーだなというのが、今日の気づきだった。

○精神科医からすれば、悪いということではないが、型破りで危険なところもあるアドバイスだと思った。こういうデリケートな話なので、普通はまず聞くことに徹して、本人の気持ちを引き出して、それに寄り添っていく流れになるところだが、長渕さんも途中まで

は聴いていたが、途中からは熱い持論の展開で、一方的にご自身の死生観を押し付けるような印象で少しハラハラしながら聴いた。

彼の言うことを、正しく理解し、すべてに共感するかは別として、「とにかく自分のことを熱く思ってくれている人がいる」ということで腑に落ちる、というのがいわゆるカリスマ性なのだと思います。

精神的に無難な番組にする必要はないので、これはこれで良いが、一方で熱けりゃいいのか、という点は少し気になる。長渕さんはキャリアの長い方なので、塩梅をご存じの上での演出だと思うが、熱い持論で間違っただけにミスリードされたり、暴走されたりするリスクがないわけではない。傷ついた10代に対して、説き伏せるような感じで接した場合、リスナー本人は長渕さんに対して到底言い返せないと思うので、そういう時に校長がフォローしたり、話の流れを戻したりすることも重要になってくるだろう。

○個人的に長渕さんに特に興味を持ったことはなかったが、ある意味、彼をそれほど知らないのは、この番組の対象の10代も同じだろう。一番興味があるのは、対象がどう思ったのかという点だ。「暑苦しいおやじ」ではあったが、すごく真面目にやりとりをしていたので、悪い印象は全く持たなかった。今の若い人たちがこういうものを求めているのか、疎ましく思うのか。自分が若い頃だったらこういうのは嫌いな方だったが、今は誰も言ってくれないから逆に新鮮なのか、聴いているターゲットの受け取り方が二分されるのではないかと思った。

■長渕 LOCKS! の「掲示板」に集まっている声を見ると、確かに大半の10代のリスナーは、親が聴いていたのは知っていて、テレビでも見たことはあって、イメージとしては、怖いおじさんのようなタレントとして認識している。

ただ、今回放送して、もっとも多かったのは、学校の先生にこういうタイプの人が今いないから、本当に学校の先生として生活指導で来てくれたらいいのに、という反応だった。

どうしても今、教育現場では先生の側も何かを「してはいけない」という環境の中で指導をしている。かつてのように声を荒げたり、ましてや手を上げたりすることも一切禁じられている中、親からも先生からも怒られたことのないのが今の生徒。彼らは、こうしたストレートなものをぶつけてくる大人と話ができることが嬉しいという。アンチな意見も来ると思ったが、実際にはほとんど来ていない。

○週1回ラジオの中の先生だから良いのであって、実際の担任だったら嫌だろう。

○非常に真面目にリスナーと向き合っていたが、逆に、ロックミュージシャン、アーティストとして見ると、何も意表をついた話がなかった。いろいろな慰め方があるが、もっと違う世界に連れていってくれるようなアドバイスが、アーティストらしくあっても良かったのではないかと。

<第 413 回放送番組審議会 議事録>

○このリスナーを「とにかく救わなきゃ」という強い想いが伝わってきた。

○実は当たり前のことしか言っていない、この正直さが長瀬さんらしさでもある。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「SPO☆LOVE」  
11月29日(土)5:00～7:00放送
- ② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、12月2日(火)に開催することを決めた。

以上